



統計数理研究所リスク解析戦略研究センターシンポジウム

「先端医療技術の開発における統計的諸問題と今後の課題」

主催： 統計数理研究所リスク解析戦略研究センター

日時： 2010年2月18日(木) シンポジウム 13:00-18:15, 懇親会 18:15-19:00

場所： 東京都港区港南 2-15-1 品川インターシティ A 棟 27F

京都大学東京オフィス 第2-3会議室 (<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office/about/access.htm>)

開会の挨拶： 本シンポジウムの趣旨・めざすところ 松井茂之(統計数理研究所) 13:00-13:20

第I部： 統計的手法の適用と開発： 研究活動・成果の報告 (13:20-16:10)

1. 早期臨床試験の計画と解析： ベイズ統計の応用

i) ベイズ流デザインの開発と応用 大門貴志(兵庫医科大学)・手良向聡(京都大学) 13:20-13:40

ii) がん早期臨床試験でのバイオマーカーデータ解析
～ベイジアン階層モデルの適用～ 森田智視(横浜市立大学) 13:40-14:00

2. バイオマーカーを用いた臨床試験での治療効果の検証

i) がん分子標的薬の評価のための臨床試験デザイン
山中竹春(九州がんセンター)・松井茂之(統計数理研究所) 14:00-14:20

ii) バイオマーカー同時臨床開発デザインにおける母数推定 吉村健一(京都大学) 14:20-14:40
- 休憩 - 14:40-14:50

3. 予後解析、アウトカム研究の解析

i) 予後因子の探索と予後指標の構築 手良向聡(京都大学) 14:50-15:10

4. 分子診断法開発のための探索的解析

i) 大規模ゲノムワイド臨床研究の紹介と新たな統計的課題 松井茂之(統計数理研究所) 15:10-15:30

ii) 治療効果予測システム構築における統計学的諸問題 牛嶋大・松浦正明(癌研究所) 15:30-15:50

iii) がんの易罹患性遺伝子探索におけるゲノムワイド関連解析の動向と課題
口羽文(国立がんセンター) 15:50-16:10
- 休憩 - 16:10-16:20

第II部： 産・官・学それぞれの立場からの問題提起・今後の課題 (16:20-18:15)

i) 国民のためになる医学研究の推進に向けて 山口拓洋(東京大学) 16:20-16:35

ii) 臨床試験のインフラ構築における統計的課題
～HTR データセンター立ち上げを通して～ 伊藤陽一(北海道大学) 16:35-16:50

iii) 臨床研究における研究計画と統計家の関わり
～研究計画書レビューの経験から最近の研究テーマなど～ 上坂浩之(大阪大学) 16:50-17:05

iv) 治験の国際化に求められる統計学の役割
～製薬企業の統計家の立場から～ 小山暢之(第一三共) 17:05-17:20

v) 医薬品開発及び承認審査における統計学の役割 安藤友紀(医薬品医療機器総合機構) 17:20-17:35

vi) アカデミアでの教育について 大森崇(京都大学) 17:35-17:50

vii) 総合討論 17:50-18:10

閉会の挨拶 椿広計(統計数理研究所) 18:10-18:15